



令和8年1月号 Vol.94
情報メディア教育センター

謹賀新年。お正月はどのように過ごしますか？日本では年末年始がお休みの方が多いですが、欧米ではクリスマスが休暇、大晦日を花火などでお祝い、新年からは平日という国が多いようです。また旧暦のお正月を祝う国々、中国は春節、韓国はソルラル、ベトナムはテトと言われる連休となるようです。その他ブラジルやオーストラリアは、真夏ですね！同じ南半球ニュージーランドでは、マオリ文化におけるマタリキのお祝いが5月下旬～7月上旬の冬の中頃に行われるそうです。様々な国のお正月見てみたいです。



(@emc_szk) • Instagram



2026 明けまして
おめでとうございます。

干支の午年にあやかり、前進&飛躍的に新しいことにチャレンジしていきたいですね。EMCでも新しい企画を考えていきたいと思っています。
どうぞお楽しみに。



一年の計は元旦にあり。抱負戦隊 シンネンジャー





新着図書ピックアップ

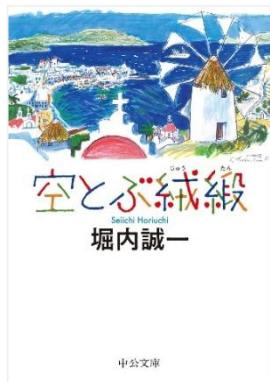


新着ピックアップは毎月、司書が「これは、ぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。

『成瀬は都を駆け抜ける』

宮島未菜 【著】 新潮社

成瀬の最終巻がついでました～！京都大学入学後の成瀬の様子が描かれています。一巻の尖った成瀬が好きな私的には、ちょっと物足りませんが、あの成瀬に恋バナ！？（二巻で出てきたあの人）とか、あまり登場しなかった母の想いとか、これはこれで裏話的で面白いです。周りに馴染めなかった幼少期から読んでいると、島崎が不在の成瀬の周りに「成瀬」を理解してくれる人達がたくさんいて良かったなあと、もはや親目線です…滋賀県らしく「叶匠寿庵」や「たねや」がちょっと出てくるところもお菓子好きには外せないポイント。ぜひ、過去作品を振り返りながら最終巻楽しんでください。（矢田）



『空とふく縦横』

堀内誠一 【著】 中央公論新社

本書はイラストレーター、アートディレクターとして活躍した著者が、世界を旅しながら見つけた風景、街の匂いや息づかいを自身の感性で軽やかにすくい上げたエッセイ集です。色あざやかで瑞々しいスケッチが所々に織り交ぜあって、「情報」だけではなく「気分」や「手触り」まで伝えてくれる点が魅力的です。

いつかこんなふうにスケッチしながらゆっくり旅がしたいですねー。
タイトル通りまるで空とふく縦横に乗って旅をしているような一冊。（大塚）

『なぜあの人はいつも上機嫌なのか』

和田秀樹 【著】 扶桑社

精神科医として受験本も出されている著者の感情コントロール本です。表紙に”不機嫌を引きずる人は老けやすい”とあり自然と手に取っていました。具体的な行動を書いてくれているので分かり易いです。また他人や天候のような外的要因に機嫌を左右されるのではなく、機嫌は自ら選択し作り出すという主体的な視点に変えていくと示されています。感情は周りに伝染するという心理学の理論があるそうです。日々の感情をあらためて見つめ直し、不機嫌をまき散らすことないようにするためにも、上機嫌でいられるようを目指したいなと思います。（大原）



EMCでは新着図書を「ブクログ」で紹介しています。

「ブクログ」トップページ▶ カテゴリー▶ 2025年12月新着

⇒<https://booklog.jp/users/suzukakyoeilib>

今月の新着本は3月頃、配架（貸出開始）予定です。



一周まわって読書が“だだくさ”になってきた

藤崎一臣の本、読んでいこう！ vol.86

『店長がバカすぎて』『新！店長がバカすぎて』
『さらば！店長がバカすぎて』早見 和真【著】角川春樹事務所



私の読書の計画性がバカすぎて、この本の紹介が年またぎとなってしまいました…。

結果的に1か月半の期間を要し、ようやく『店長がバカすぎて』『新！店長がバカすぎて』『さらば！店長がバカすぎて』シリーズ3冊を読み切ることができました。きっと、1週間で読み切る人もいるかもしれません、私には速読の技術もないで到底無理です。なにより、活字を見ていると眠たくなるのです。ちょっと休憩が命取り。毎度寝落ちの繰り返し…。決して物語がつまらない訳ではないのですが…。読書で眠くならない方法、眠くなったら場合の対処法を知っている方、教えてください(;▽;)

舞台は、東京都民住みたい街ランキングで常に上位にランクインする吉祥寺。小さな書店で働く本好き店員（谷原京子）がこの物語の主人公。その主人公の前に立ちはだかるのは、店長の山本猛。猛という名前ばかり勇ましい「非」敏腕クセあり店長。この2人を中心とした書店での人間模様が、人気仮面作家により小説化され大ヒットします。もちろん本のタイトルは『店長がバカすぎて』その作家はいったい何者なのか…。（これ以上はネタバレになるので控えておきます。）

店長やクセのある客への怒りや不満、同僚への嫉妬、そして自身の立場や仕事に対する情熱、フィクション作品だからこそ設定は多少あるものの、書店員の人生を追体験できる作品です。

作中に出版業界・書店不況のワードが度々出てきます。現実世界でも同じ状況です。スマートフォン・SNSの影響による娯楽の変化やデジタル化・電子書籍の影響による購買環境の変化により、街の書店に人が足を運ぶ理由（本を買うこと）が弱まったことが原因であると言えます。そのような状況下において、作中で“なぜ、街に書店がなければいけないのか。”に対するあまりにもカッコいい答えを店長が発します。店長、実は敏腕なのでは？

出版業界・書店の厳しい現状において、この答えは筆者が読者に宛てたメッセージのように私は感じました。だからこそ、ここでその内容を記したい！と思ったのですが、そうすると『店長がバカすぎて』を借りてもらえなくなるかもしれないでやめておきます。意地悪ですみません。『さらば！店長がバカすぎて』のP.198にその内容はあります。気になる方はぜひ！



『店長がバカすぎて』『新！店長がバカすぎて』
『さらば！店長がバカすぎて』

早見 和真【著】角川春樹事務所

1月の開館予定

1月		
1	木	休館
2	金	休館
3	土	休館
4	日	休館
5	月	休館
6	火	休館
7	水	8:10-15:30
8	木	8:10-16:50
9	金	8:10-17:50
10	土	休館
11	日	休館
12	月	休館
13	火	8:10-17:50
14	水	8:10-17:50
15	木	8:10-17:50
16	金	8:10-17:50
17	土	休館
18	日	休館
19	月	8:10-18:50
20	火	8:10-18:50
21	水	8:10-18:50
22	木	8:10-18:50
23	金	休館/館内整理
24	土	休館
25	日	休館
26	月	8:10-18:50
27	火	8:10-18:50
28	水	8:10-18:50
29	木	8:10-18:50
30	金	8:10-18:50
31	土	休館

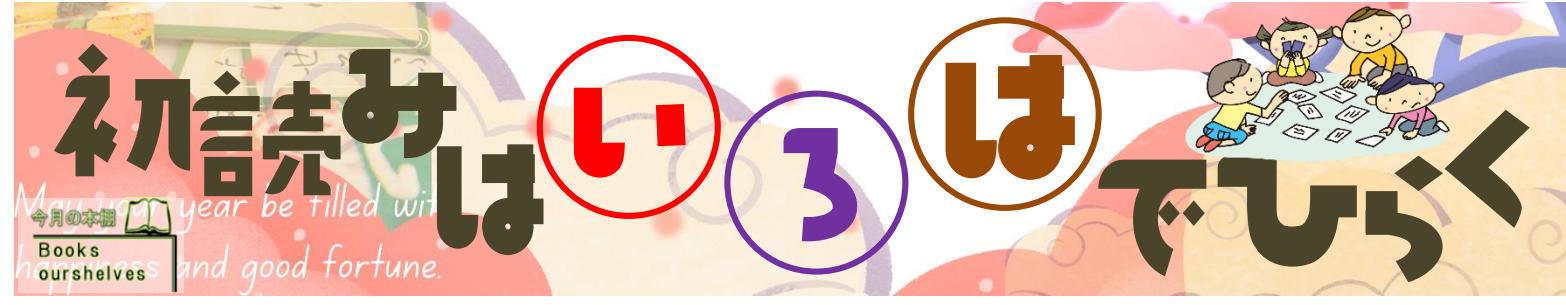


第19回 鶴岡 幸英先生おすすめ
『クスノキの番人』

東野 圭吾【著】実業之日本社

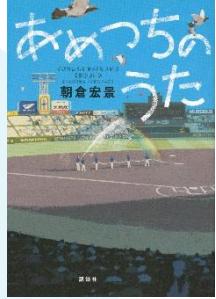
主人公は玲斗という少年です。玲斗は盜みを働いて逮捕されますが、叔母からの依頼を引き受けることを条件に釈放されます。その依頼とは、「その木に祈れば願いが叶う」という言い伝えがあるクスノキの番人になることでした。クスノキに祈念に訪れる、人生に悩む人々と関わる中で、玲斗自身も成長していきます。そしてクスノキの謎とは何なのでしょう？この本を読み進めていくうちに、あなたもクスノキの下を訪れたいと思うはず。

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどなたに渡るかな？



「犬も歩けば棒にあたる」、「泣きっ面にハチ」…今月はお正月らしく「いろはかるた」の内容に合わせて本を選んでみました。「いろはかるた」のことわざってみんな知っているものと思っていたが…死語の世界はここまで広がっていたのか！がんばれ！いろはかるた！新年、EMCがおくる社会的問題提起型企画です。

縁の下の力持ち



『あめつちのうた』
朝倉宏景【著】
講談社

主役は土をならすグラウンド整備のプロ。
甲子園の裏ヒーローのお話です。

泣きっ面にハチ



『スメル男』
原田宗典【著】
講談社

突然身体から異臭がするようになった男が命まで狙われることに。笑えるノンストップ型不運小説

チリも積もれば山となる



『三千円の使いかた』
原田ひ香【著】中央公論社



一日100円貯金に挑戦する美帆。一ヶ月で
3000円、最終目標は1千万！

論より証拠



『科搜研の砦』
岩井圭也【著】
角川書店

勘や想いは通じない。
最後に物を言うのは——証拠だけ。

カウンター前で展示中／

同時
開催



図書館からのお知らせ

●卒業される皆さんとの本の返却期限について

最終返却期限は**2月16日（月）**です。受験等により図書の貸出を希望する人はカウンターで利用期間の延長手続きをしてください。

●開館時間延長

受験シーズン到来！**1月19日（月）～18:50**まで開館時間延長します。受験生の皆さん、がんばってください。

●EMC図書みくじ **1月8日（水）**からスタート！限定100人です。無くなり次第終了

編集後記 確かに読んだ本なのに、どんな内容だったか、結末はどうなったんだか、思い出せないこと、しばしば…。今年こそは「読書ノート」をはじめたいと思います。(大塚)

本年も
よろしく

